

教育センターだより

平成25年度 第2号 (5月31日発行)

鳥取県教育センター 〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201番地

TEL 0857-28-2321(代表) FAX 0857-28-8513

【URL】 <http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【E-Mail】 kyoikucenter@pref.tottori.jp



光る一言 鳥取短期大学 山田修平学長の講話より (新任校長研修①)

山田学長は元神戸大学教授、故森信三先生の著書「真理は現実のただ中にあり」から言葉を引用されながら、次のようなお話をされました。

- 「己を正せば、人はむりをせんでも、おのずからよくなっていく」「道徳とは自分が行うべきもので、人に対して説教すべきものではない」
自分が変われば相手も変わる、仮に相手が変わらなくとも自分が高まることは間違いない。
- 「しつけとはそのことの意味や価値が十分わからぬうちに、形の方から身につけてゆくこと」
躰の三原則、朝の挨拶、ハイとはっきり返事、席を立ったら椅子を入れ、履き物を脱いだら揃える子。わが子にしてほしいことをまず親たる自分から行う、教師にもあてはまる。
「性根の入った人間になる秘伝は、朝起きてから夜寝るまで常に腰骨を曲げんこと」
森信三哲学の1つであり、体の“かなめ”である腰骨を立てることは人の主体性確立の最も有効な方策である。
- 「結局最後は、『世のため人のため』というところがなくては、真の意味で志とは言い難い」
本当にやる気があればたいがいのはできるが、自分のためだけに何かをやりとしたり、どうしても後ろめたさが残る。他の人たちのお役に立てるといふ部分があつてこそ、心も迷うことなく全力で進んでいける。

若手教員の育成 「若手教員授業力向上ゼミナール」 スタート

小学校・中学校の教員を対象に、教科の専門的知識を基盤とした実践的指導力の向上を図る「若手教員授業力向上ゼミナール」研修を実施し、若手教員の授業力向上をめざしています。

5月14日に第1回目を行い、3教科ともにスタートしました。

講師に、文部科学省の水戸部調査官(小学校国語)・澤井調査官(小学校社会)・富山調査官(中学校国語)を迎え、各教科における「学習指導要領の趣旨を踏まえた指導のあり方」「言語活動の充実」「学習評価」等について学びました。今後、理論研修・授業参観・代表授業研究会・所属校における授業実践等、年間10回のシリーズ研修を行います。



[小学校国語ゼミナール]

土曜自主セミナースタート

6月29日(土)「『ネット社会の歩き方』講師育成セミナー」を開催

■講師：千葉大学教育学部附属中学校 三宅 健次 主幹教諭
協 力：CEC(財団法人コンピュータ教育開発センター)

■申し込み：6月21日(金)までに、すでにメールで送信している専用の申込用紙に記入の上、ファクシミリまたは電子メールにてお申し込みください。

■定 員：機器の関係により、先着40名としています。

情報モラルの指導技術の習得を目指す先生方に、ぜひ参加していただきたい研修です。

みなさんのご参加をお待ちしています！

出前講座のご案内

本年度から、出かけるセンターの機能を高め、教育センターの指導主事が学校に出向いてお手伝いする内容を充実させて、校内研修の講師を務めます。次のような内容での校内研修をお考えの場合、まずはお電話にてお気軽にご相談ください。

※今後、研修内容を随時追加する予定です。

(連絡先) (0857) 28-2321 (代表)

■担当課にお電話ください。日時・内容・所要時間は、ご相談に応じます。

	内容	研修名	担当課 (講師)
1	ネットコモンズV2	ネットコモンズV2の操作研修をします。ネットコモンズV2への変更・運用をお手伝いします。(所要時間2時間)	研修企画課 ICT活用教育担当
2	情報モラル研修 ※①	情報モラル教育の基本について講義します。情報モラル指導の基本的な考え方や授業の作り方についてお話します。(所要時間1時間)	研修企画課 ICT活用教育担当
3	ICT活用研修	ICTを使った授業改善のお手伝いをします。デジカメとパソコンを使った考える授業づくりについて研修を行います。(所要時間1時間)	研修企画課 ICT活用教育担当
4	楽しいワークショップ型授業研究会 ※②	学習者主体の授業づくりを進めるための授業研究会をお手伝いします。授業分析法をパッケージにしたワークショップによる研修を行います。(所要時間1時間)	研修企画課 研修企画担当
5	事例検討会支援 ※③	チェックシートを活用して、特別支援が必要な児童生徒への支援を考える研修を行います。(所要時間1時間～1時間30分)	教育相談課
6	個別の指導計画活用 ※③	PDCAサイクルに基づく個別の指導計画の活用について研修します。(所要時間1時間～1時間30分)	教育相談課
7	Q-Uを活用した学級集団づくり ※③	結果の読み取り、解釈の方法、支援・指導への活用について研修します。(所要時間1時間～2時間)	教育相談課

※①②③の詳細

※①<情報モラル研修>

最近の事例を紹介し、事例をもとにしてトラブルの原因を考えます。

情報モラル教育の基本について学び、情報モラルをどのように指導していくかを考えていきます。講義のみではなく、ワークショップを入れていき、校内の先生方とともに課題を解決していきます。

※②<楽しいワークショップ型授業研究会>

「授業力の向上」を目的とする授業研究会に、センター指導主事を派遣します。教師・生徒の活動時間を視覚化したデータ分析法(S-T分析法)や授業を焦点化された視点で時系列的に分析する方法(13観点法)をアレンジした授業分析法を用いたパッケージ研修です。活発な意見交流を促進するファシリテーターを派遣し、ワークショップ型授業研究会をお手伝いします。

※③<事例検討会支援、個別の指導計画の活用、Q-Uを活用した学級集団づくり>

学級の様子や児童生徒の状況に合わせた研修をめざし、先生方のニーズを聞きながら、先生方と一緒に研修会を作っていきます。集団の高まりや子どもたちひとりひとりの成長につなげていきましょう！



教育相談棟玄関にて..



教育相談棟のなかに入ると、マスコットキャラクターの**きくリン**がにこやかに迎えてくれます。**きくリン**が誕生したのは、今から4年ほど前です。

その当時は名前がありませんでした。**きくリン**という素敵な名前がついたのは一昨年です。誕生したときから、いろいろな人のいろいろな話を大きな耳でたくさん聞いてきたので、ピッタリの名前です。

エッセイスト、報道番組のキャスター等でおなじみの阿川佐和子さんの著書「聞く力 心をひらく35のヒント」が話題になっています。

現代社会のなかでは、自分を押し出すアウトプットの力に関心が向きがちですが、「聞く」というインプットの力を忘れてしまっ

ては、アウトプットの力はとうてい身につけません。そう言えば、日本には「話し上手は、聞き上手」というよい言葉があります。**きくリン**は、私たちが身につけたいいろ

んな力の源なのかもしれません。**きくリン**に会いに来てください。

四つ葉のクローバーを持って待っています。

きくリンです。
みなさんのいろんな話
がききたいな。待ってま
す。



巻末随想

「温かい心について」

所長 坂本 修一

平成22年8月3日（火）の朝、車のラジオで「NHK夏休みこども科学電話相談」を聞いた。好きな番組なので夏になると楽しく聞かせていただいているが、その日放送された小学校高学年女子児童による質問と、その回答者の発言の内容は、私にとって特に記憶に残ることとなった。

「冬の寒い日に外で遊ぶと、友達の手は手袋をしていても冷たくなるのに、私の手は手袋をしていなくても暖かくなります。だからみんなが私と握手したがるんですが、どうして冬になると手が冷たくなる人と暖かくなる人がいるのですか。」というのがその質問だった。

私は、この子はどのようにして真夏に真冬のことを思い出して質問したのだろうか、と不思議に思うと同時に、どんな回答者がどんな回答をするのか興味を持ってラジオのボリュームを上げた。回答者のお名前を忘れてしまったのが残念だが、おそらく心理学に関係しておられる回答者だったのだろうと思う。その回答の内容がすばらしかった。

「〇〇ちゃん、こんな実験をした人がいるんですよ。街を歩いている人に、『湿布の販売キャンペーンです。お礼に商品券を差し上げます。』と言って、ある人には温湿布、ある人には冷湿布を貼らせてもらいます。そしてたくさんの人に湿布を貼って感想を聞き、温湿布を貼った人が『暖かい』と答え、冷湿布を貼った人が『冷たい』と答えるのを確認して、商品券を何に使うか尋ねると、『暖かい』と答えた人は、『家族や友だちのために何か買いたい』と言い、『冷たい』と答えた人は『自分のために何か買いたい』と言うことが多いと分かったんです。つまり、暖かい経験をした人は心も温かく、優しくなり、人のために何かしたくなるということなんですね。だから、〇〇ちゃんの手が暖かくなるのは、人の心を温かく、優しくするためなんです。だからこれからも、〇〇ちゃんはみんなと握手してあげて、みんなの心を温かく、優しくしてあげてくださいね。」という回答だったのだ。

その実験が本当に行われたものなのかどうかは知らない。また、回答が女子児童の質問に直接答えていないことも確かだ。しかし、この回答者なら、冬に手が冷たくなる子どもからの質問がきても、きっと即座にすばらしい回答をするのだろうとも思った。

臨機応変のその回答は私たちに、「子どもたち一人ひとりに温かい心で接してあげてください。そうすれば子どもたちにも温かい心は伝わり、子どもたちは変わりますよ。心を開いてくれますよ。」ということを教えてくれているように聞こえる。

私たちは、いつもそんな気持ちを持って人に接したいものだと思う。

